

令和6年度第1回緑区支えあいのまち推進協議会

議事要旨

1 日 時 令和6年8月31日（土）14時00分～16時20分

2 会 場 緑保健福祉センター3階 大会議室

3 出席者 委員 26名（欠席委員数 5名）

傍聴人 0名、事務局 11名

4 議 題

- (1) 令和5年度取組状況及び令和6年度計画の情報共有について
- (2) 地域での課題について（意見交換・情報共有）
- (3) 広報誌「みどりのきずな」の原稿作成について
- (4) 次期委員改選について

5 議事経過

- ・開会にあたり、石井区長、岡本委員長より挨拶を行った。
- ・令和6年度からの新任委員として、あんしんケアセンター菅田の鈴木委員を紹介した。

議題（1）令和5年度取組状況及び令和6年度計画の情報共有について

事務局より「資料1 緑区支えあいのまち推進計画の推進状況（令和5年度）総括表・個票」の説明を行い、質疑応答を行った。

【質疑応答】

（木之内委員）

各エリアの個票の中に町内自治会数が記載されているが、このうち、避難行動要支援者名簿を提供している自治会数を明示することはできないか。

（事務局）

本調査票は市の社会福祉審議会地域福祉専門分科会で使用される様式であり、6区共通で使用しているものであるが、本協議会で活用するうえでそのような記載ができるかどうかは検討事項としたい。

その後質疑応答はなく、「資料2 緑区支えあいのまち推進計画の取組状況（令和5年度）及び計画（令和6年度）等調査票」により、各エリアのグループワークにより共有を図った。

議題（２）地域での課題について（意見交換・情報共有）

各エリアに分かれグループワークを行った後、グループごとに発表し課題を共有した。

【発表内容】

（誉田エリア 山本委員）

町内会の高齢化が顕著になってきており、自動車運転免許を返納したことなどを理由として役員の成り手がなく困っている状況である。また、集いの場として誉田公民館が活用されることが多いが、明日から公民館が改修工事に入るためしばらく使えなくなってしまうことで、集いの場が減少してしまうのではないかと懸念している。

（土気エリア 福邊委員）

自然災害発生時に健常の方、障害を持つ方、高齢の方を含め地域住民の安全をどのように確保していくかが課題として挙げた。現状は第一に在宅避難、それから親族宅への避難、自宅での避難やホテルなどの宿泊施設も検討したうえで最後に避難所への避難ということが推奨されているが、どこへ避難するにしても事前に色々な物を準備しておく必要があるという話が出た。中でも町内自治会の動きというのは非常に大事であると思われる、普段から声を掛け合って災害時にどのように避難していくかということを考えておくことが必要ではないかとの話が出たが、この点について、土気の大椎台自治会においては、「無事ですタオル」というものを活用して安否確認を行っているという事例を共有した。

また、認知症のある高齢の方が行方不明となる事例が増加してきており、その方をどうすれば早期発見することができるかということが挙げた。普段からの声掛けが必要と思われるが、昔からの部落の地域であれば普段からの結びつきが強く声掛けなどがされているかと思われるが、繋がり弱い地域もあり、特に男性の方が地域と繋がっていない、どうすれば男性の集いの場が確保できるようになるかという話が出た。

（平山エリア 馬場委員）

バスの廃止に伴う移動手段の確保について地域の中で取り上げられており、市へも要望しているところであるが、デマンドタクシーの運用について検討されている。この点についてアンケートを取ってみると、今はまだ自分で運転していて困っていないが、将来免許を返納しようとしたときに困るといったことが出てきており、これから協議体を立ち上げて検討していく予定である。デマンドタクシーを立ち上げた際に運賃をどうするか、また、一定の利用者を確保するため普段から利用するよう住民の方へ協力を求める必要が出てくるのではないかとの話が出た。

また、地域の担い手不足や高齢化を理由として30年以上続いてきた敬老会の開催が

困難となってきている。高齢者が増加したことに伴い会場の確保が難しく、また、担い手不足により人材確保が困難となったことが背景として見えている。貴重な地域の交流となる機会がなくなってしまったということで、何か検討しなければいけないのではないかという話が挙げられた。このような中で、子どもたちを含め多世代交流を通じて地域の交流を増やしていく必要があるのではないかと意見も出た。

(おゆみ野エリア 久保委員)

まず、高齢化率が高くなっていることから、高齢者施設やケアマネ、ヘルパーが不足しているといった状況が挙げられた。これに対応するためには近所との普段からの付き合いが大事であり、高齢者の方々が一緒に関わる場づくりを含め、高齢者との関わり方を考えていかなければいけないという話が挙げられた。おゆみ野地区は公民館などの集いの場所の確保が課題であるが、既存の資源、例えば諸団体の活動や、趣味などを通じた高齢者の通いの場を作ることができればよいのではないかと話が出た。また、女性より男性の方が集いの場に集まらないという現状があることが挙げられた。

次に、担い手の確保については各団体において課題となっているが、抜本的な解決策はなく時間をかけていく必要があるとの意見が挙げられた。

次に、移動手段について、おゆみ野から鎌取までのバスの本数が減少しているが、地域住民がバスを利用するよう働きかけていきたいと考え、公民館にこの時間のバスを利用しようといった呼びかけを実施しているところである。

最後に、障害者や高齢者の徘徊について、すぐに発見できるよう警察や消防を含めた横の連携が必要であり、また、「おせっかいをやく人」が必要である。おゆみ野地区では若い人が多くなっているため、自治会長を中心に横の連携ができていけばベストであるとの意見が出た。

(椎名エリア 岡本委員 小山委員 廣田委員)

椎名エリアでは公民館や避難所について課題が挙げられた。避難所の問題として、隣が崖という立地問題がある。以前、夏に台風が発生した時に、椎名地区では公民館が工事中であったため使用できず、避難所を開設しないということがあった。それは事情があるので納得できるが、一方で市原市では、公民館が工事中であるときは小学校を避難所として開設するということが公表されている。この点について、夏休み中の小学校を避難所としてなぜ使えないのかと確認したところ、良い回答が得られなかったということがあった。

防災の話でいうと、千葉市で唯一、井戸を防災用に活用しているのが椎名地区となっている。給水車が来た時に井戸の水を吸い上げて飲料水に活用できるようになっているが、吸い上げた時に田んぼの泥と一緒に吸ってしまうという状況があり、実際には使えないという状況であった。それについては市と協議して井戸の水が使えるようになったということがあった。

それから椎名地区部会で実施している健康体操については、介護事業所と一緒に地区を回って実施しているものであるが、健康体操といきいき活動を一体的に実施している。認知症防止のための運動と、頻尿を防ぐ運動に視点を絞っており、それに加えて講義形式により進めているところである。なぜ頻尿を防ぐ運動に絞っているのかというと、頻尿になることは年を重ねていると必ず生じるというものであるため、人知れず頻尿で悩んでいる方が多くいらっしゃるという状況が見受けられることから、取り入れているものとなっている。

議題（３）広報誌「みどりのきずな」の原稿作成について

事務局より「資料３ 広報誌「みどりのきずな」の原稿作成について」によりスケジュール案を説明後、各エリアで広報委員の選出について確認を行った。

議題（４）次期委員改選について

事務局より「資料４ 次期（令和７年度から９年度）委員の改選（案）について」により説明後、質疑応答を行った。

（大槻委員）

資料に各団体の委員の氏名が記載されておりますが、各団体における次の委員が同じ者になるとは限りませんが、そのあたりはどのように考えているか。

（事務局）

各団体の代表として来ていただける方であれば、現委員と同じ方でなくてもよいと考えている。

<その他の連絡等>

○事務局

次回、第二回推進協議会の開催日については、後日、事務局から連絡することとした。

打譚社会福祉協議会緑区事務所長から挨拶を行った。

鈴木緑保健福祉センター所長が閉会挨拶をして終了とした。